

桐朋中学校・高等学校 上原先生 加藤先生 富井先生

今回は、定期試験等でデジタル採点ソフト『採点ナビ』をご活用いただいている桐朋中学校・高等学校の上原先生・加藤先生・富井先生にお話を伺いました。

インタビュー日 2022年12月14日



※新型コロナウイルス感染症対策として、マスク着用でご対応いただきました。

同僚の先生との立ち話で、「他の公立校では『採点ナビ』を使っているらしい」と聞き、次の日には電話をかけました。

____本日はよろしくお願ひします。まずは、自己紹介からお願ひします。

上原先生: 教科は理科・地学を担当しており、19年ほど勤めています。2年前より高校の教務主任となり、『採点ナビ』の導入を進めていました。

富井先生: 担当は数学です。現在、中学1年生の担任を受け持っています。桐朋は4年目、教員は6年目となります。最初に『採点ナビ』の問い合わせをしました。

加藤先生: 私は英語の教員で、17年目になります。中学部の教務主任1年目です。『採点ナビ』の使い方は、富井先生に教えてもらいました。

____『採点ナビ』導入の経緯についてお聞かせください。

富井先生: 同僚の先生との立ち話で、「他の公立校では『採点ナビ』を使っているらしい」と聞き、次の日には教育ソフトへ電話をかけました。

上原先生: 私はマークシートシステムの入替えを検討して教育ソフトへ問い合わせたところ、デジタル採点のお話がありました。そういう時代なのだな、と思っていたところに富井先生から『採点ナビ』の話がありました。

富井先生: タイミングよく教務から、「良いシステムがあったら教えてください」という、全体への声かけがあったこともあります。

まずはお試し版からスタートして、同僚の先生や若い先生を中心に小テストから使い始めました。そこから徐々に定期テストでも使うようになりました。

____お問い合わせ後に『採点ナビ』のご紹介をさせていただきましたが、そのときの『採点ナビ』やデジタル採点への印象はいかがでしたか？

富井先生: 以前からデジタル採点というものは知っていましたが、完全自動採点ではないというのは、特に問題はありませんでした。僕もそこまでできるとは思ってなかったので…。あとは解答用紙のテンプレートがいないというのが、導入しやすそうだなと思いました。

上原先生: それが一番大きかったと思います。実は他社のものを試したことがありますが、用紙が決まっていたり、解答用紙スキャンの向きの指定など制限がありました。『採点ナビ』は解答欄が四角い枠で囲われていればいいですし、スキャンもどの向きでも大丈夫なので、使い勝手が良いなと思いました。

加藤先生: 私は最初「デジタル採点」という言葉から、すべてAIで自動採点してしまうのでは…という不安や抵抗感がありました。しかし、話を聞くとそれは違う、ということでしたのでハードルが下がりましたね。やはり、デジタル採点に合わせて解答用紙、つまりテストが変わってきってしまうと本末転倒なので、そこがない、少ないことが『採点ナビ』の魅力ではないかと思います。

- 解答用紙のテンプレート不要
- 解答欄も四角い枠で囲われていればOK
- スキャンの向きの指定なし
- …etc.

デジタル採点に合わせてテストが変わってきってしまうと本末転倒なので、そこがない、少ないことが『採点ナビ』の魅力ではないかと思います。



左から、加藤先生・富井先生・上原先生

____好意的な印象を持っていただき、大変嬉しく思います。反対に『採点ナビ』に対して、障壁やネガティブな意見などはありましたか？

富井先生: 使っている時よりは、使い始めの時点でのハードルがあったかと思います。やはり、使ってみないと分からない部分があったので、「まず使ってみて！」と勧めていきました。草の根的に広めていくためにアドバイザー的な動きもしました。

あと、先生方からは「記述の採点はできるのか？」という質問が多かったですね。そう言われた時は、『採点ナビ』と手採点のハイブリッド採点も選択肢の一つとして伝えていきます。つまり、記述問題だけを先に手採点し、それをスキャンして、短答・記号問題で『採点ナビ』を使うということです。その説明で「あ、それでもいけるのか…」となって、ハードルが下がったりすることも多かったです。

上原先生: あとは生徒にとって、自分の書いた解答用紙ではないものが返ってきた時にリアルな自分の答案として受け止められるのか、という心配もありました。ただ、今は塾や予備校の模試も同じようになっているので、結果として生徒側の抵抗はないのかもしれない。



桐朋中学校・高等学校

最終的な『採点ナビ』導入の決め手というと、やはり、他社製品と比較して先生側の業務の変更が少なかった、という部分が大きいでしょうか？

富井先生:そうですね。「もう『採点ナビ』を使ったら元に戻れない!」という声も一定数ありました。それほど採点作業が楽になりましたね。

上原先生:シンプルなインターフェースが使いやすいですし、ボタンも分かりやすい。そういったところも決め手ですね。あとは、導入費用の部分も大きかったかなと思います。

ソフトの導入で、楽になっている・役立っているところも多くあります。

- ・ 合計点の手計算が不要
- ・ 採点のやり直しが簡単
- ・ 配点の変更がまとめてできる
- ・ 添削コメントをスタンプにして何度も使える
- ・ 紙めくりなど体力的な負担が減る

『採点ナビ』を使っていただく際に、特に楽になっている・役立っている部分はありますか？

富井先生:テストの合計点を出さなくてよかったのは本当に嬉しいね、とよく話しています。問題数が多く、1点、2点が沢山ある古典や、理科・社会のテストでは特に楽になっているようです。

上原先生:楽です。合計点を手計算するのが今までは当たり前だと思っていましたが、ソフトを使えばクリックするだけで集計してくれますし、計算間違いもないですからね。
あとは採点のやり直しができるのも嬉しいです。一度○をつけた後に、別の先生と相談して「やっぱり△にしよう」となると、手採点の場合1枚1枚訂正して、どんどん解答用紙が汚くなっていましたが、『採点ナビ』なら簡単にやり直しができますから。

富井先生:配点の変更についても、まとめてできるのが良いですね。合計100点のつもりで作ったテストが99点しかなくて、どこかで足さなきゃいけない、ということもあるので……。

ほかには、生徒の解答にコメントをつける添削機能も便利です。複数の生徒が同じ間違いをすることも多いのですが、これの添削もコメントを事前に用意しておいてスタンプのように押すだけになったので、より間違いを指摘しやすくなったと思います。

加藤先生:あとは左手が楽ですよ。解答用紙の紙めくりなど、採点の体力的な負担も軽減されます。

現在、学内で『採点ナビ』をご利用の方の割合は、どれくらいになりますでしょうか？

富井先生:中学では6～7割が使っていると思います。最近では、PCがあまり得意ではないような先生も使っていますね。

加藤先生:全部のテストではないですが、例えば負担軽減の効果がありそうなときにだけ使っている方もいると思います。

上原先生:高校では5割前後でしょうか……。『必ず『採点ナビ』を使ってください』というわけではなく、興味がある先生が使っていく形にしたのですが、徐々に増えています。



富井先生

(採点時間は)試験形式によっては、半分くらい短縮しています。その日のうちに採点が終わってしまうことも多いですね。心理的には、8割くらい減っています。

多くの先生にご利用いただいているようで何よりです。実際に『採点ナビ』を使用したテストでは、採点時間がどれくらい削減されましたでしょうか？

上原先生:3割くらいは減っています。すきま時間で行っているのですが、「まだ採点が終わっていない」というのがなくなり、気づいたら採点が終わっていました。

富井先生:そうですね。3割くらいは少なくとも……ですし、試験形式によっては、半分くらい短縮しています。その日のうちに採点が終わってしまうことも多いですね。心理的には、8割くらい減っています。

最後に、今後『採点ナビ』の機能で期待する部分はありますか？

富井先生:細かいところですが、スタンプの消しゴム機能が欲しいのと、番号欄を自動認識したときに返却用個票をスキャンした順番で出力できるようにすると良いですね。

上原先生:あとは、結果をTeamsで生徒に自動返却できると良いと思います。

貴重なご意見をありがとうございます。今回伺った点も含めて、今後も『採点ナビ』の改善を進めていきたいと思っております。改めまして、本日はお忙しい中ありがとうございました。